江戸文化講座

太田記念美術館
ŌTA MEMORIAL MUSEUM OF ART

遊廓を考える 美術史とジェンダー史の視点から

浮世絵には、豪華な衣装をまとった美しい遊女たちが数多く描かれています。こうした華やかな表現から、遊廓は絵画や文学などの文化が生まれたきらびやかな世界であったというイメージが広まっています。一方、近年では、遊女の日記や手紙などの一次史料の研究が進み、遊廓で暮らした遊女たちの厳しい生活の実態も明らかになってきました。太田記念美術館では 2027 年 1 月 26 日（火）～ 3 月 28 日（日）に「遊廓の美術史」展を開催します。本講座では、この展覧会に向けて、美術史とジェンダー史という視点から、遊廓や遊女とはいかなる存在であったのかを考えます。



第1講　1月9日(土)

浮世絵が形成した遊廓のイメージ —江戸から明治の遊女絵をたどる—

華やかな衣装をまとった遊女たちの姿は、浮世絵における主要なジャンルの一つとして、江戸時代から明治時代にかけて脈々と描かれてきました。しかし、幕府による規制や社会状況の変化を背景に、その描かれ方は時代とともに変化していきます。江戸から明治にかけての遊女絵の変遷をたどりながら、浮世絵が遊女や遊廓をどのように表現し、そこにどのようなイメージを形作ってきたのかを考えます。

講師　日野原健司（太田記念美術館主席学芸員）

慶應義塾大学大学院文学研究科前期博士課程修了。専門は、江戸から明治にかけての浮世絵史。太田記念美術館にて開催する「遊廓の美術史」展を担当。著書に、『ようこそ浮世絵の世界へ』（東京美術）、『北斎　富嶽三十六景』（岩波文庫）、『モチーフで読む浮世絵』（ちくま文庫）など。

第2講　1月16日(土)

浮世絵は、何を描いてきたのか？ —歴史学からみた遊廓と遊女の実像—

遊廓は「光と闇の世界」、「金さえあれば身分の差なく扱われる解放空間」、「遊女こそファッションリーダー！」など、そのイメージは多様です。しかし、近年、遊廓をめぐる一次史料の発掘が進み、遊女たちの実像とその内面、さらに遊女たちにとって浮世絵がどのような意味を持っていたのかも明らかになってきました。その成果とジェンダーの視点をふまえ、浮世絵を味わい、深く理解するためには何が必要なのかを考えます。

講師　横山百合子（国立歴史民俗博物館名誉教授）

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。専門は、日本近世史、ジェンダー史。神奈川県立高校教諭、千葉経済大学等を経て、国立歴史民俗博物館教授。2020 年開催の同館企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」プロジェクト代表を務めた。著書に、岩波新書『江戸東京の明治維新』(2018 年)、岩波現代文庫『増補明治維新と近世身分制の解体』(2026 年)など。

申込方法

下記申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えて、太田記念美術館までご持参ください。11月12日（木）より受付開始、定員になり次第締め切ります。※郵送では申込みできませんので、ご注意ください。

日　程　2027年 1月9日(土), 16日(土)
時　間　14:00～15:30
会　場　太田記念美術館　視聴覚室（B1）
定　員　50名(先着順)
受講料　4000円（パスポート会員は3000円）
※全2回、一括前納。税込。展覧会入場料を含む。

（きりとり）

太田記念美術館　江戸文化講座 申込書　　年　月　日
「遊廓を考える　美術史とジェンダー史の視点から」

氏名　　（会員のみ記入）パスポート番号

住所

電話　　職業　　男・女

※美術館使用欄
受付日　　月　　日　　受付番号

開館時間　10:30 ～ 17:30（入館は17:00まで）
休館日　月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）
展示替え期間
公式サイト　https://www.ukiyoe-ota-muse.jp/
問合せ　03-3403-0880

アクセス
東京都渋谷区神宮前1-10-10
JR山手線 原宿駅（表参道口）より徒歩5分
地下鉄千代田線・副都心線 明治神宮前駅（5番出口）より徒歩3分

